※令和３年度以前入学生用

２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

令和５年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	日本史Ａ※	単位数	２	年次	３
使用教科書	高等学校日本史Ａ　新訂版　（清水書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

近現代を学ぶことは現代を生きる私達にとって、これからの未来を作る私達にとって、必要不可欠なことです。現代に大きく関わる歴史の流れを読み解き、多様な考え方、視点を持ち、常に疑問を投げかけながら授業を進めていきますので、みなさんも教科書と筆記用具と常に「なぜ」の見方を持って授業にのぞんでください。
成績は出席点、授業への取り組み、考査点で評価します。

２　学習の到達目標

① 日本の近現代の歴史や諸外国との関係を、日本国内の動きに加えて地理的特徴、当時の世界の動きとを関連させて考えることができる。

② 日本の近現代の歴史を学び、現在までの歴史の大きな流れを整理し、理解することができる。また、学習内容を元に現在の日本のあり方や課題を論理的に考えることができる。

③ 歴史的事象を資料や根拠に基づいて実証的・批判的・多面的に考察することができる歴史的思考力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・日本国の歴史を学ぶ意義に気づき、日本国の歴史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことが出来る。 ・歴史を学ぶ中で平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく自覚をもって考える態度を身につけている	・日本国の歴史を地理的条件や世界の歴史などと関連付けて実証的、多角的、多面的、批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することが出来る	・日本国の歴史を学ぶための諸資料から、有用な情報を適切に読み取り、それらを効果的に歴史の探求に活用することが出来る	・近代から現代に到るまでの日本国の歴史の流れ、基本的な知識を身につけている。 ・日本国を地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら理解出来る
評価方法	・授業プリントへの書き込み ・課題 ・出席点	・課題 ・定期考査	・課題	・課題 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	・私達の時代と歴史 ・国際環境の変化と明治維新 ・近代国家の成立と国際関係の推移	・私達と歴史の結びつき ・私達の時代 ・１９世紀世界の動向と日本 ・開国と倒幕 ・明治新政府の諸改革と社会の変化 ・明治初期の外交と反政府運動 ・自由民権運動の展開 ・立憲体制の成立 ・日清戦争と国際関係 ・日露戦争前後の世界と日本	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:日本国の歴史を学ぶ意義について考え、様々な歴史的要素や日本国の歴史の展開について感心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる b:日本国の歴史を地理的条件や世界の歴史などと関連付けて実証的、多角的、多面的、批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することが出来る c:世界の国々や日本国の地理から歴史の動きを読み解くことが出来る d:近代に入り帝国主義的な世界の動きとそれに伴う日本国の動きを理解しているかどうか	・出席 ・課題 ・定期考査
	・両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 ・現代世界と日本	・帝国日本と第一次世界大戦 ・政党政治と大衆文化 ・軍国日本への道 ・太平洋戦争と日本 ・現代世界の開幕と日本の戦後改革 ・日本再建と復興への道 ・米ソ二極構造の世界と国内の再編 ・高度経済成長の時代 ・低成長から経済大国へ ・冷戦の終焉と日本	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:現代に繋がる動きに関心を持ち、主体的に学習に取り組み民主的な社会の形成者としての自覚をもって考えることが出来る b:近現代史の展開や現代社会について歴史的に考察し、適切に表現できる c:これまで当たり前とされてきた資料でさえも批判的、多面的に資料を読み解き、考察することが出来る d:二つの世界大戦と太平洋戦争による日本国の状況など現代に直結する内容を理解し、未来を考える上での知識として定着しているかどうか	・出席 ・課題 ・定期考査
後期は実施しない								

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。